

A.

磁器の力で 新しい光を 生み出したから

真夜中のご帰宅もお任せ

「うちはずっともと、普通の窯元だったんですよ。それが今では、住宅などの建材を中心に受注することが多くなってきました」ここ、鷹山工房は、建材自体を発光明示物にする「ルナウェア」という新しい技術で注目を集めている。お世辞



鮮明な光を放つ蓄光建材「ルナウェア」



鷹山工房株式会社
社長 山下靖弘さん

にも、大企業とはいえない難いかもしれないが、だからこそこの蓄光建材が生まれたのだと社長の山下靖弘さんは胸を張る。一般的に蓄光素材の多くは樹脂に成分を練りこみ、素材に貼付けることで取り込んだ光を放つ。

「その方法だと、弱点も多いんです。厚く樹脂を塗ることができないため光に限度が出ますし、劣化速度も速い。ぼんやりと光る”くらいでは、照明に代用できるほどの明るさが出なかつたんですよ」

多くの企業がさじを投げたことを止めずに続けてきたのは、会長である父の、陶工としての誇りと確かな腕があつたからだという。成功に導いたのは、有田焼の伝統が培った上絵付けの技術。長年の研究に、文字通り、「光が射した」のだ。

「蓄光の薬剤を厚く塗るには上絵付けの技術が必要でしたし、それを焼き付けるのも有田焼の焼成技術があつたからこそ。気が付けば、すべての材料が揃つていたんですよ」

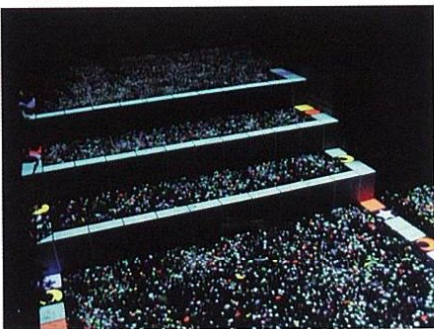
こうして生まれた「ルナウェア」。住宅のタイルや階段となつて月明かりのように足を照らしてくれる。

命を守るセーフティネット

開発と商品化にかける親子の情熱には、ある悲惨な事故がきっかけになつたのだという。それは、韓国で起こつた、大規模な地下鉄火災事故。

ラッシュ時の電車を襲つた悲劇に、多くの尊い命が犠牲となつた。

「地下鉄の非常灯が停電で機能しなかつたため、パニックが大きくなつ



屋外で使用する場合も劣化が少ない

たと聞きました。停電などの非常事態にも左右されないものを作るべきだと強く思つたんです。利用者の安心を、少しでも確かなものにできたら」とそして生まれたのが、蓄光素材の非常灯「ルナセーフティブライト」。有田焼の技術が安心への橋渡しをしてくれるという。

改めて、「温故知新」

「ルナウェアは新しい技術ですが、四百年という長い歴史の中で積み上げられ、磨かれてきた有田焼の伝統から生まれたもの。新しいものばかりを追い求めてはいけません。私たちも、伝統を守り引き継いで、新しいものへと昇華していきたい」

今の新しい技術が、次世代へと受け継がれていく伝統になるのかもしれない。